

LM corsa

60 **OTG** MOTORSPORTS GT300
 ● A.Iida ● H.Yoshimoto

OTG MOTORSPORTS × **INGING MOTORSPORT**

General comment

AUTOBACS SUPER GTシリーズの公式テストが6月18~19日にスポーツランドSUGOで開催され、第3戦・オートポリスが熊本地震の影響で中止になったため、第2戦・富士スピードウェイでの本戦以来、約1か月半ぶりの走行となった。

LMcorsaが飯田章と吉本大樹に託した「SYNTIUM LMcorsa RC F GT3」は、開幕からの2戦でしっかり完走を果たし、貴重なデータを蓄積することができた。となれば、次に求められるのは確たる結果。公式テストにおいても万全の体制で臨むこととなった。

テストは基本、1日に2セッションずつ2時間、4セッションが予定されていた。本戦ではなくテストであるにもかかわらず、週末のSUGOには大観衆が。熱い視線が注がれる中での走行開始となった。ちなみにセッション1開始時の気温は25度、路面温度39度と、6月にしてはかなり高めであったが、これはむしろ7月下旬に本戦が行われることを思えば、理想的なコンディション。まずは吉本が「SYNTIUM LMcorsa RC F GT3」に乗り込み、持ち込みセットの確認から始めて、続いてバランスチェックを実施。3回の赤旗中断があったため、予定していたほどにはマイルージを稼ぐことはできなかったが、24周を吉本が走行。そして、まずは1分21秒934をマークする。

午後からのセッション2からは飯田もステアリングを握ることとなり、吉本が施したセットを、まずは確認することに。そこからは、さらなる煮詰めを行っていくこととなった。タイムとしては32周を走行した飯田が1分22秒289、そして13周を走行した吉本が22秒085がベストと、セッション1を上回れなかったものの、これは気温が30度、路面温度が50度まで上昇したこと、一発の速さをあえて求めなかったため。むしろコンスタントにラップを刻めたこと、さらにタイヤ選定もスムーズに行ったこともあって、チームのムードは上昇することとなった。



明けて日曜日、2日目のSUGOは天候に恵まれず、早朝には霧雨も。セッション3の開始時には路面は乾いていて、ドライタイヤでの走行が可能だったものの、20度を切る気温は初日とは対照的に、本戦ではあり得ない。そのため、タイヤの選定よりもセットの最終確認と、比較的ロングをかけながらの走行がメニューとされていた。このセッション3では飯田も吉本も、それぞれ28周を走行。ベストタイムは飯田の1分20秒407で、吉本がほぼ変わらぬ20秒583を記録していたのは、現時点でのクルマの性能を、ドライバーふたりが最大限に引き出していたことの何よりも証明と言えるだろう。

そして、仕上げとなるセッション4は、スタート直後にSCトレーニングが行われ、またセッション3が赤旗によって10分早く終了となったため、10分間計測が追加されることとなった。中盤からは霧も出て、視界も遮られる中では速さを求めるべくもなく、しかしながら飯田、吉本ともにロングをこなしていく。ここでのベストタイムは36周走って、中盤に吉本が記した20秒155。それでもテストの最速タイムとあって、どれだけセットが順調に進められていったか理解してもらえないのではないだろうか。もし、これでコンディションに恵まれていたら……と、かえって期待を高めることとなった。そして飯田も21秒425をマークする。

チェッカーが振られる前に、予定されていた全メニューをこなせたため、最後にドライバーチェンジとタイヤ交換のシミュレーションを急ぎ行うことになったが、その際にプロペラシャフトが破損。思いがけぬ幕切れとなった。とはいえ、今回のテストではコンスタントにラップを刻むことができ、7月末に控える本戦、特に決勝レースにおいては、十分に期待を抱かせる内容となった。このムードをしっかりキープし、大活躍を期待したい。また、7月9~10日には鈴鹿サーキットでの公式テストも控えており、ここでの煮詰めも大いに望まれる。

Director's comment



チーム監督

小林 敬一

Keiichi
Kobayashi<http://www.koba-pla.net/>

最後の最後にトラブルが、プロペラシャフトが折れてしまってテスト終了となりましたが、今まででいちばん内容の濃い、エンジニアの組んだメニューをしっかりとこなせた、すごく有意義なテストになりました。特にバランスチェックは入念に行い、かなりいい感じになってきましたのでね。アベレージタイムが悪くなくて、ユーズタイヤでの安定感がすごくあったので、まだ順位は下の方ではありますが、これからはいろんなストラテジーがかけられそう、そんな手応え、予感も感じました。テストでは今までいろんな迷惑をかけてきたのですが、今回そういうのはまったくなく、逆に収穫がいっぱいありましたので、これからを期待してください。

Driver's comment 1



ドライバー

飯田 章

Akira
Iida<http://akira.jp/>

今回、テストは今までになく順調に進みました。距離もしっかり稼げましたし、僕自身もいつも以上に頑張ってセットアップしましたし(笑)。クルマは持ち込んだときより確実に速くなりましたし、いい方向も見つけられたので本当に良かった。おかげで、またチームの士気が高まったのは間違いない。とにかく、できることはすべてやった、という印象です。

Driver's comment 2



ドライバー

吉本 大樹

Hiroki
Yoshimoto<http://www.hiroki-yoshimoto.com/>

走り出しはアウト～インを繰り返し、ピットで調整を何度も行うという作業から始まりはしましたが、2日間を通していろんなトライができて、搾りきった果汁の1、2滴をギュッと絞出すような、爽りあるテストになったと思います。昨シーズンのSUGOは、もう少しでQ2に行けるか、っていうところまで来た、シーズンを通して最も戦えたサーキットでした。とは言っても、ライバルもパフォーマンスが上がっているのも楽ではないと思いますが、ポイントは獲りにいきたい。次の鈴鹿テストもさらに前進できるよう、頑張ります。

